

これがシャンソンなのだという説得力と、
これがシャンソンなのかという驚愕：
それがクレール・エルジエール

前原克彦(文学・フランス語)

フランスの大衆音楽は、わが国で第二次世界大戦以前から「シャンソン」として親しまれてきました。しかし、特定の時代の過去の音楽ではありません。シャンソン・フランセーズ(フランスの歌)は、ヴァリエテ(さまざまな意匠)あるいはポップとして、百数十年以上、連綿と続いています。そしていまも、フランス(語)の歌が、新たに生まれ続けています。しかも過去の遺産が忘れられることはありません。たとえばポップ・フランセーズの象徴である、エディット・ピアフの活動は、もう60～90年も前のことですが、今日も聴かれ続け、歌い継がれています。そして、こうした広がりには時間のみならず、空間をも超越します。若い世代が、ブレルの再来、ヴェロニク・サンソンの継承者、バルバラを思わせると評されても、それはエレクトロニックやラップ、コンピューターを経験した現代のものであり、ジャズやロック、ワールド・ミュージックを通り過ぎたグローバルなものなのです。

そんな古くて新しい、普遍的で、ユニークな歌を歌い続けてきたのがクレール・エルジエールです。彼女が2018年の「パリ、愛の歌」公演から4年ぶりに来日します。しかも日本国内14都市のかたがたに、彼女の折り目正しい、けれども決して堅苦しくない歌声に接していただきます。コロナ3年目の秋、やっと友人たちに再会できる喜びはひとしおです。クレールは、彼女を見出したアーティストのひとりであるジュリエット・グレコへのトリビュート・アルバムを発表したばかり、そのグレコの三回忌直後という、このタイミングに、運命的なものを感じます。パリの街角の風景、人類の根源である愛を歌う名曲の数々をお愉しみください。

特別編成のパリ・ミュゼット・バンドがバックを固めます。クレールの長年のパートナー、ギタリストで歌も歌い、もちろん作曲もアレンジもこなす才人ドミニク・クラヴィクが演奏と、音楽監督をつとめます。クレールとの共演歴が長いピアニストのグレゴリー・ヴー、ヴァイオリンのマティルド・フェブレール(アコーディオンの名手ダニエル・コランとの双頭アルバムあり)という日本のリスペクトレコードで多くの作品を制作したメンバーに、前回の来日で同行し、その後日本企画のソロアルバムも発表したアコーディオニストのクリストフ・ランピデキア、さらにベーシストのオリヴィエ・モレを加えた五人組です。ドミニクは知る人ぞ知るカルトバンド「プリミティヴ・デュ・フュチュール(未来の原始人)」(クレールもダニエルもマティルドもメンバー)のリーダーでもあります。彼らが演奏するフランスのダンス音楽「ミュゼット」も楽しみです。

クレール・エルジエール

Claire Elzière

1971年パリ生まれ。1997年に歌手としてデビュー。サラヴァ・レーベルのプロデューサー、ピエール・バルーに認められ、フランスの偉大な歌手、作詞家であったピエール・ルーキとアラン・ルプレストの作品をアルバムに収めるよう勧められる。発売した3枚のアルバムは大成功を収め、注目を浴びるようになる。1999年、ジュリエット・グレコのステージで名曲『美しき星に』を披露し、グレコ本人から「とても素晴らしい!ああでなくては!歌は」と褒め称えられる。2007年、日本での活動を開始し、リスペクトレコードからフランス古典歌曲のレパートリーを集めたCDを録音し、日本全国で多くのツアーを行う。2022年には、リスペクトレコードより新しいアルバムをリリース予定。



特設サイトはこちら

民音創立60周年記念
クレール・エルジエール & パリ・ミュゼット・バンド
パリ、愛の歌
魅惑のフレンチ・シャンソン



本公演は、新型コロナウイルス感染予防、および拡大防止の対策を講じて開催いたします

主催者の取り組み

- 会場内の消毒、換気を定期的に実施いたします
- 入場時、お客様に検温とアルコール消毒を実施いたします

お客様へのお願い

- 37.5度以上の発熱や風邪の症状、味覚・嗅覚障害等、体調不良のお客様はご来場をお控えください
- 会場内ではマスクを着用の上、咳エチケットにご協力ください
- 入退場時などは混雑を避けるため、スタッフの指示に従いご移動ください

最新の情報は、
民音公式サイト

<https://www.min-on.or.jp/>
をご確認ください



※感染拡大防止のため、必要に応じてお客様の情報をお聞きし、保健所等の公的機関に提供する場合がございます